



再開高其梅

三

13
3153
3



特
へ13
3153
3

莊門照編輯
續詩學精選
小本 全六冊

此書正編ハ去ル明治十二年上梓發兌ヒシ處ニハ湖諸
君高評ヲ得其數千部ノシテ未ク及クニ實ニ編
者榮譽書肆ノ幸甚云々アリテ是令嚴正編ニ備セ
ズ稱職ト載レ續編ハハルモアリテ是令嚴正編ニ備セ
タズ稱職ト載レ續編ハハルモアリテ是令嚴正編ニ備セ
（果品）私蔬（飛禽）走獸（鱗介）昆蟲（地理）人事（器用）飲食（靴鞋）百物
熟字正編ヲ義例ニ從テ韻字百餘ヲ載レ題ハ三ノ門ニス之レハ
便ト作題ス六首ハ今未ク曾有レ珍題名詩ニ載レハ其ノ金
玉ヲ知リ瑤詩ハ今未ク曾有レ珍題名詩ニ載レハ其ノ金

再岡高基梅卷之三

おえん実母の名系遠人活

栗村孝鬼卯著
藏書印

かくておえんをわがももさやうよさうきればたよほび尼よみ
ふーぎ 不思役のぬ縁もてかきまごめ海とぬ世活よらつり
忘さぐく 赤さより中なるよ尼るもごり流しぬ年美よハ
似合ぬやさき山月一松のくけ一河乃流も他生乃縁と園ほ
てやかくぬ宿中も海と因縁るもぬ赤紅いつづまよらやとさね
るよされば私り大坂産まふよ海と彩ひらうて今出川
はははし 糸定れば父もろ母もろきまうりあさこの身の上
小粒さう先ま親乃奉のそ恋しくいとうら志ほまて吐き

高基梅卷之三

尼きりりと静し井 苗さめくともを静く抱くもさびし
 かやひつとぬおごりてさよにつけた板生まきとさびるや
 けつりも大坂にて育はるまねいり 諸さる此身の不仕
 合とさる久元と由法平き浪人としてらるる言せ
 一と善光のりおまりて父母乃目伝りて隣り善人と深
 くかへいりて思ふぬ身とさるりて深くつと其人終末
 親をよまひせ呼向んまきるるまねく 玉氷よるさる
 さりれとせしきくさるるき月日と思ひ言せしこの
 思入其人は後初の娘の終りてくさるる久元は終り切て
 泣きせしとわびりぬ 父母も果さぬ歎この中れ終りて
 いりせんとも愛思ふら養井りては女もさるりり

母人さるる人も和りて此身の上もさるる縁じん強
 くも其身をまねばとさるりて乃内の子と今もおひ
 出せたるまごのたひよりさるる身とさるりて系初の叔父の
 久元は娘とて善光家の方へ嫁りてさるる其まも
 死にて系身とさるる後家とて家とてさるりて小善
 親とて一人も公の御法として死罪ふさるる家
 終とさるるき初めては弟の家とてさるりて是宿世の因
 縁とさるるとおひいりてさるる此とさるる久佛道入る人
 の善光と弟とより外におい去るる忘まきつとこの捨り
 娘の事さるりてあるさるるおひ身位乃とさるりておひ
 ころけて長きのがさるるおひもおひとてぬ家もえり捨り



嗟我乃
艸菴
於之寶母
也
達
山



山
村
卷
三

其元は侍の何方より居るまじやと向ふ忠八善て東海道
 宿石茶屋の間にさうな村よりよりまると宿をり削村にて冬
 積六とゆくと物産とまをさつて一巻紙に記す其元は侍
 園(向ら)や忠八善て大う此と人又十日もくり下り大坂
 へ向りよ西の山へ下りつてもはれまき川原がうんと暇を
 三列まきる程なまの天もさる程して一さんよ三ゆり有る事
 とも一と物産まはかえん大い思ひまを流儀の母もは書
 日以の歌の有家まをぬまき也思ひ下りしと浮来はる
 盲の地の一と一田よ思ひと合まきまかえん程ならよ句の歌乃
 左家まき一よと一寸もくもく三紙まを流儀まきと三紙ま
 八歌なるもろろわど彼忠八西國彫礼より西國一系よ達まき

出るる風とくくいて逐天せんもくろくか一日もくもくか
 して三紙まを流儀まきと三紙まを流儀まきと三紙まを流儀まき
 おのくいよと三紙まを流儀まきと三紙まを流儀まき
 多し暇とま吉白と探ひまを流儀まきと三紙まを流儀まき
 兩人り削村へ三紙歌の有家と探る流
 君父の仇中まともよ天城つまを流儀まきと三紙まを流儀まき
 八歌の有家と探るまきと三紙まを流儀まきと三紙まを流儀まき
 流上まきと三紙まを流儀まきと三紙まを流儀まき
 て降まきと三紙まを流儀まきと三紙まを流儀まき
 付てやどりとりり削村の余まきと三紙まを流儀まきと三紙まを流儀まき
 ちまきと三紙まを流儀まきと三紙まを流儀まき
 下りまきと三紙まを流儀まきと三紙まを流儀まき



お多
郡左門
中
弓削村
敵郡蔵
討と改

高田松卷之三



伊勢豊久野
 七九郎兄郡左門二達て
 勘氣を俵して同及す



御休所
 福助

馬臺村卷之三

何れも動気山教免下るる一と世も表おれひる教免下
 も流石血くら不便さよ約とやうけりる此世にて對面
 かりしもよめ事と教免下る某る世も今中約におま
 スくハ陸分家業精知一城の人とぬるる一勤富ゆりとも
 折と折しんとさげらるる換振して業店と立つまハ七九郎
 ハ疎らつとたそとよまう情るれゆい形もるさ折
 水お會中一某い一山勤富山教免下るまよとるうくと
 るゆきまをりさハ教免下も定まらう一ひたわとまて深
 教く志一折をぬる一候一富の途中心とゆらさるる
 へゆらともつとる一河やうとささきハ七九郎折の外は
 此世表一ゆらとま山勤富と見うけきり幸私と高の幸とて

松坂一用るゆり序るる一某氣乃んがけゆも中と一と教免下
 か折一箇風居しき色るる一けりかづと道とと竹亭
 とも一其教ハ津の町ハ後者一ぬ教免下才ハ風情ハ紙付て
 とも一若一と替りて物やうと休るる一餐窓一けふ心も
 ちけまのり一思ひを色ハ今とつと一歌うらハ始末一と物
 かうりるる一七九郎大ハ終るる一扱ハ折ひとぬるる一けぬるる
 とも折ハ折角たづの遠まハ一歌と折るる一ゆらハ山鏡
 とも一と又おえん一向ハ見のとも一兼まハ私多ゆも山厚
 思れぬ人おせぬと速まハ教免下るべ一くるるハ山鏡
 とも一と天のとてハ不氣なり私ハ心カとぬく色まての悪
 名ともハ此時折るる一丈夫一おがハ一歌たハ何圃よう

まろーお急の仏事科石碑科を寺人坊より見の違ふの
むくやうの良へ活もー其つてまろー簡とらるーと
のうら付一と白運富一を我屋へもけわの礼と厚く之見
町の族名とまお急良へ寺にてまろー

再因高臺梅卷之三

御家御門人

平安中野侯將堂先生著

高家

子紙大全

必用

横綴中 全一冊
大冊

此書は御家御門人の御用集を以て
御家御門人の御用集を以て
御家御門人の御用集を以て
御家御門人の御用集を以て
御家御門人の御用集を以て
御家御門人の御用集を以て
御家御門人の御用集を以て
御家御門人の御用集を以て
御家御門人の御用集を以て
御家御門人の御用集を以て

照陽高見先生著

續皇朝戰畧篇

全五冊

此書正編、再行ハル下久シク且盛ナリ而ノ其近世ノ戦略ニ於テ既ニ卷ヲリ紙數充ル
以テ記スルノ能ハス故ニ今續先生ニ乞ヒ新ニ統編ヲ發見スル所ニ其記載スルマ文化
年間曾西亞人蝦夷地ニ入寇スルニ始マリ爾來大和長防又西東ニ戰ヒ王師東征尋テ佐
賀台灣ノ諸役及ヒ朝鮮江華島ノ捷ニ終リ其中大小諸戰智將勇士ノ奇勳偉功ヲ
洩スル無シ即チ兵家必讀ノ書タルハ言フ俊ヌ今ノ日開明文化ニ由テ興ルニ所以スル者
マタ戦ヒニ出レハ人ノ尊卑ヲ問ハス有志者ハ此書ヲ閱セサル可ラス四方君子幸ニ購求シテ
其奇書タルヲ知リ玉ヘト云フ

大坂書肆

文榮堂

前川源七郎謹白

右書各府縣下普ク書林へ輸出有之ハ間御手寄ニテ御購求下サレ度ハ

